

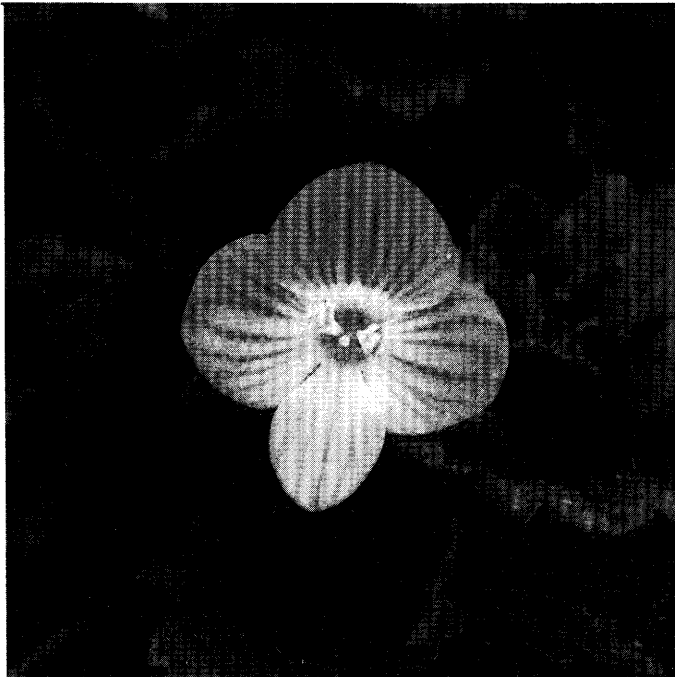
# 郷土あかし

郷土館だより  
第38号

五日市町立  
発行 五日市町郷土館 東京都西多摩郡五日市町五日市920-1 電話 0425・96・4069

## 五日市の野草花ごよみ

岡田光弘 (五日市町留原在住)



正月からちらほら咲き出す 1.オオイヌノフグリ 91.3.14 留原

### はじめに

五日市は山があり川があり、空気がきれいで自然の豊かなよい所であると思い、住居を構えて16年がたった。幼い頃自然を相手に育った私には、数年ずつ暮したところのある都心や武蔵野の平地地には二度と住む気にならなかった。この五日市こそ、住むには絶好の地であると思えた。そして、朝夕の自家用車通勤の途中で見ると山々の木々の変化や、時々自然の恵みを受けて心に安らぎを得る日々を送ることができた。

しかし、今としてみると在職中は仕事や趣味に追われて、五日市の自然をごく大雑把に見たり、感じたりし

ていたんだと思うようになった。以前から詩歌に出てくる花や、人に好かれてどんどん採取され、その数を減じている花ぐらいいは知ってはいたが、イチリンソウとニリンソウの区別もおぼろな私だった。それが退職して家のすぐ近くで、今まで全く知らなかったいろいろな花に会えたり、知ってはいたが今までにない別な感情で接せられるようになった。「節分」の言葉をきくころ日だまりに小さなオオイヌノフグリを見て、のどかな春の訪れを感じ、言葉に表せないすばらしい青い花と、小細工のきいた花のつくりにかわいさを覚えるようになった。また、ユリワサビ、カタクリ、イチリンソウ、ヤマブキ等の群生のみごとさに、身も心も洗われていい気持ちになったり、ヤマエンゴサク、タツナツソウ、ウツボグサ等の花の形や鮮やかな花の色にすっかり魅せられてしまうようになった。

そして、新しい花を見つけては図鑑と首引きで名前を調べ、今日はこっち、明日はあっちと歩きまわり、日毎に花の種類を増していった。そのうちにこの五日市にはどこにどんな花があるか調べてみようと思いたち、1つずつ写真に収めることにした。花の命を大切に一輪たりとも採ることなく続けた。そしてできたのが次頁の表である。

また、この表は五日市の中でも留原、小峰の山が中心であり、その他高尾、網代、横沢入、小和田、戸倉、御岳沢などを加えてできたものであり、五日市の全地域を網羅したものではない。そして、科名とか学名、学術的な分類や特徴には重きを置かず、写真に収めた順に羅列したにすぎない。従って、野草とのつきあいのごくごく初歩的な花ごよみ一覧表であると同時に、野草への入門の第一歩であると理解してほしい。

五日市の野草 花ごよみ 一覧

	花をつけた植物名
春に咲く花 (五月)	1.オオイヌノフグリ 2.ユリワサビ 3.セントウソウ 4.カンスゲ 5.ミヤマカタバミ 6.アズマイチゲ 7.ハナネコノメ 8.ハコベ 9.ホトケノザ 10.フキ 11.ヤマドリソウ 12.カタクリ 13.ミヤマキケマン 14.ムラサキケマン 15.ヒメオドリコソウ 16.キランソウ 17.カテンソウ 18.トウゴクサバノオ 19.カキドオシ 20.ヒロハノアマナ 21.アマナ 22.ミミガタテンナンショウ 23.イチリンソウ 24.ハナニラ 25.シュンラン 26.ネコノメソウ 27.コチャメルソウ 28.ミヤマネコノメ 29.ミミナグサ 30.マルバコンロンソウ 31.ショウカツサイ 32.スギナ 33.スズメノカタビラ 34.スズメノヤリ 35.ヤマエンゴサク 36.ヤブニンジン 37.ジロポウエンゴサ 38.シャガ 39.ツルカノコソウ 40.クサノオウ 41.チゴユリ 42.コオニタバコ 43.ナズナ 44.イヌナズナ 45.ノミノフスマ 46.キツネノボタン 47.ニリンソウ 48.キンポウゲ 49.フデリンドウ 50.スズメノエンドウ 51.タニギキョウ 52.カラスノエンドウ 53.ヒメハギ 54.タネツケバナ 55.ジュウニヒトエ 56.オニタバコ 57.レンゲソウ 58.ヤマブキソウ 59.センボンヤリ 60.ヤエムグラ 61.ミツバツチグリ 62.ツボスミレ 63.オカスミレ 64.タチツボスミレ 65.アカネスミレ 66.タツナミソウ 67.シオデ 68.ジシバリ 69.タガラシ 70.ホウチャクソウ 71.オランダガラシ 72.ヒロハコンロンソウ 73.キジムシロ 74.クワガタソウ 75.トキワハゼ 76.アオマムシグサ 77.ブタナ 78.ヤマタツミソウ 79.シソバタツナミソウ 80.ヤブジラミ 81.ハルジオン 82.ツメクサ 83.カタバミ 84.タチイヌノフグリ 85.スイバ 86.ムラサキサギゴケ 87.イヌガラシ 88.オドリコソウ 89.ニワゼキショウ 90.ハハコグサ 91.スズメノテッポウ 92.ハナウド 93.フタリシズカ 94.ヤブレガサ 95.セキショウ 96.カラスビシャク 97.オオジシバリ 98.ヒメスイバ 99.ハルノゲシ 100.チドメグサ 101.ヘビイチゴ 102.ヤブヘビイチゴ 103.オヘビイチゴ 104.ギシギシ 105.ハンショウズル 106.コンフリー 107.ミヤマナルコユリ 108.シロツメクサ 109.アカツメクサ 110.ハナニガナ 111.オニノゲシ 112.コメツブツメクサ 113.イヌノフグリ 114.コウゾリナ 115.オニノヤガラ 116.カモジグサ 117.チガヤ
夏に咲く花 (六七月)	118.ナルコユリ 119.トリアシショウマ 120.ツユクサ 121.ウツボグサ 122.キツネアザミ 123.ノアザミ 124.ヒエガエリ 125.コモチマンネングサ 126.コヒルガオ 127.ユキノシタ 128.クモクリソウ 129.ヤマホタルブクロ 130.ダイコンソウ 131.シロザ 132.ネズミムギ 133.ノボロギク 134.イグサ 135.シラケガヤ 136.ハキダメギク 137.スベリヒユ 138.ヤマニガナ 139.タケニグサ 140.ネジバナ 141.オオバジャノヒゲ 142.ヒメジョオン 143.アキノタムラソウ 144.オトギリソウ 145.ミツバ 146.ソクズ 147.ムラサキニガナ 148.アカバナ 149.ムラサキカタバミ 150.オカトラノオ 151.ハエドクソウ 152.イヌゴマ 153.オオバコ 154.ヤブカンソウ 155.ニガクサ 156.ヒヨドリバナ 157.ヨウシュヤマゴボウ 158.オオバギボシ 159.オオマツヨイグサ 160.ガガイモ 161.ヤマユリ 162.ヒメヤブラン 163.チダケサシ 164.キツリフネ 165.ガマ 166.イワタバコ
秋に咲く花 (八月)	167.キツネノカミソリ 168.ハグロソウ 169.ヤマホトトギス 170.マツカゼソウ 171.タカトウダイ 172.ククイモ 173.ガンクビソウ 174.ネコハギ 175.ボタンヅル 176.センニンソウ 177.ツリガネニンジン 178.ゲンノショウコ 179.カラスウリ 180.アレチウリ 181.アマチャヅル 182.アカネ 183.キンミズヒキ 184.オトコエシ 185.キツネノマゴ 186.ヤブミョウガ 187.ヤブラン 188.クズ 189.ノハラアザミ 190.カラマツソウ 191.コバギボシ 192.ヤマシロギク 193.ヤブツルアズキ 194.ツルマメ 195.カナムグラ 196.オオイヌタデ 197.オオブタクサ 198.イタドリ 199.ヌスビトハギ 200.チカラシバ 201.アギナシ 202.カヤツリグサ 203.ミズガヤツリ 204.ツルボ 205.フユイチゴ 206.オミナエシ 207.ノダケ 208.カシワバハグマ 209.コナギ 210.ヒガンバナ 211.キバナアキギリ 212.ツリフネソウ 213.ツルニンジン 214.エノコログサ 215.ツルリンドウ 216.ミズヒキ 217.ベニバナボロギク 218.ヨメナ 219.ヤブマメ

220. ダンドボロギク 221. アキノノゲシ 222. アメリカセンダングサ 223. ヌカキビ 224. イヌホウズキ 225. チヂミザサ 226. ヤクシソウ 227. ヨシ 228. ツルヨシ 229. ヤマゼリ 230. セイタカアワダチソウ 231. オオハナワラビ 232. リュウノウギク 233. コシオガマ 234. ヤマハッカ 235. アキノキリンソウ 236. ミゾソバ 237. リンドウ 238. カンアオイ 239. ノブキ 240. コセンダングサ 241. サラシナショウマ 242. ノコンギク 243. センブリ 244. ナギナタコウジュ 245. ナンブアザミ 246. シロヨメナ 247. コウヤボウキ 248. オヤマボクチ 249. タイアザミ

注 1. これが五日市の野草の全部ではない。まだ調べれば相当数ある。(特に盆堀川の上流とか、養沢川の上流の高い所とか) 2. 番号は必ずしも花の咲く順番とは限らないし、また花の最盛期でもない。しかし、咲いていたのは事実だし、おおよそ咲く順番と見てよい。(239ノブキは、本来もっとずっと前になる。) 3. 32スギナ、227オオハナワラビは、表の間には不相当であるが、特別に加えた。

## 1. 名前あれこれ

### 1. 名前の覚え方

以前、海藻の標本を作った経験からして、草花も採集して来て標本を作ることだと思う。毎日新聞紙をとりかえながら、名前を見ていけばすっかり乾燥して、台紙に貼る頃には完全に覚えられる。採集のむつまじくなった今では、写真に撮って、毎日一回以上見れば一週間くらいで覚えられる。要は、いかに多く草花に接するかである。

また、図鑑などに書いてあるいわれとか、姿、形からつけられたものも多いので、そうした特徴を覚えることも大切である。さらに、自分なりに何かと関連づけて覚えるのも一法である。

### 2. 名前のつけられ方

#### ① 環境からつけられたもの

ミヤマ (深山)、サワ (沢)、イワ (岩)、ヤマ (山)、オカ (丘) など、その生育場所からつけられたものはかなり多い。(5、11、13、28、35…)

#### ② 姿からつけられたもの

ヒメ (姫)、コ (小)、コメツブ (米粒) など、小さいとか、かわいいという意味でつけられている。また反対の意味からは、オオ (大)、オニ (鬼) などがある。(15、1、112、115、158…)

#### ③ 形からつけられたもの

9 ホトケノザ、94 ヤブレガサ、158、191、ギボシなど、人の生活文化の似たところからつけられている。(その他、鳥足とか、蟹、蜘蛛、こうもりなど)

#### ④ 役立ちからつけられたもの

139 タケニグサ、218 ヨメナ、243 センブリ、ジュウヤク (ドクダミ) など、薬草その他で役立つことからつけられている。反対の意味を持つとイヌ (犬) がつけられる。

#### ⑤ 人からの距離でつけられたもの

スズメ、カラスなどがあり、特にスズメがつくと小さくて、そこらにたくさんある意味を持っていると思われる。

#### ⑥ その他

77 ブタナ、197 ブタクサ、133、217、220 ボロギク、136 ハキダメギクなど、その繁殖力の強さからきらわられてつけられたかわいそうな帰化植物もある。

## 2. 野草あれこれ

### 1. 残念なこと

#### ① この四年間で見られなくなったものがある。

- ・ 128 クモキリソウ、小峰神社の境内に一株 (90年) あったが、次年から見られなくなった。
- ・ 88 オドリコソウ、中村の梅林に一株 (90年) あったが、今はない。

#### ② 以前たくさんあって、もう見られなくなったり、絶滅しそうなものがある。

- ・ オキナグサ、小峰の山に戦後までたくさんあったが、野草ブームと共になくなってしまった。



にぎやかに咲き揃った 35. ヤマエンゴサク

91.4.13 高尾

- ・ フクジュソウ・クマガイソウ、はすべて掘られて、人家の屋敷に移されてしまった。
- ・ キバナノアマナは日の出町の羽生で何本か見られるだけになってしまった。
- ・ ギンラン、80年ごろ留原の杉林に数本あったが、今はない。92年に小峰の山でみじめな一本を見た。
- ・ 206 オミナエシ、小峰の山で細々と二三本生きている。
- ・ 213 ツルニンジン、(89年) 留原で一本見たが、今は近辺では見られなくなった。

## 2. 嬉しいこと

- ① 山深く入らなくてもすぐ近くで見られるものがあった。
  - ・ 166 イワタバコ留原の川に面した崖でかなり見られる。
  - ・ 51 タニギキョウ・74クワガタソウが天王沢の下流で見られる。
- ② まだまだ五日市にたくさんあって、人家のすぐ近くで見られるものも多くなる。
  - ・ 5 ミヤマカタバミ、6アズマイチゲ、11ヤマドリソウ、12カタクリ、35ヤマエンゴサク、55ジュウニヒトエ、…164キツリフネ、…など多種見られる。
- ③ 前山公園に 115オニノヤガラが一株あって十数本の花を咲かせていたが、今年(92年)は三カ所になって、本数も増えた。



115オニノヤガラの花柄上部  
91.5.29 前山

- ④ 今年79シソバタツナミソウの群生地を発見した。数百株?これは私だけの秘密にしておこう。

## 3. 悲しいできごと

- ① 小峰の山で206オミナエシのすばらしい花を二本見つけたが、二日後には持ち去られて影もなし。
- ② 天王沢の12カタクリの群生地で、毎年何株か掘られて、その数を減している。
- ③ 網代で6アズマイチゲの写真を撮っていたとき、見知らぬ人に声をかけられた。20分後に行ってみた

ら、一輪の花も残っていなかった。

- ④ 小峰の山で243センブリの大群生を発見し、仲間を集めて見に行ったら、数分の差で全部採られてしまっていた。つい大声で「来年のたねぐらいは残して下さいよ。」とってしまった。

## 4. その他のこと

タンポポトと言えばセイヨウタンポポが主で、人家のまわりから山の上まで繁殖している。しかし、この五日市では、道からちょっとはずれるとまだまだ日本古来からのカントウタンポポが多く見られる。盆堀、戸倉、留原などがそうである。横沢入では91年までセイヨウタンポポは一株も見かけなかったが、今年になって、自動車の駐車場所付近で数株見られるようになってしまった。

## おわりに

この四年間野草と接して、私は野草が人生にこんなにも多くの潤いと感動を与えてくれるものだとは知らなかった。花園の真只中にたたずむと、この世の極楽を感じさせ、心静かに花と対面すれば、発見の喜びにも浸ることができた。

こんなすばらしい野草に、いや、地球上のすべての生き物に、私は何か恩返しをしてやらなければならないと思う。それは少しでも多く深く自然を知り、人間のごう慢さからもたらされる自然破壊から守ってやることだと思ふ。そして、地球上のすべての生き物が少しでも長く自然の中で共生できるように念じずにはいられない。



春ののどかな日差しの中、咲き競う 23イチリンソウ  
91.4.22 前山